

令和4年度 那覇市立病院 医師労働時間短縮計画
※令和4・5年度用

計画期間

令和4年4月～令和6年3月末

対象医師

内科医師（32名） B水準

脳神経外科医師（7名） B水準

小児科医師（16） B水準

麻酔科医師（4名） B水準

※ 副院長等の管理職は除く。

1. 労働時間と組織管理（共通記載事項）

（1）労働時間数

内科医師（32名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	581時間58分	580時間00分	580時間00分
最長	1328時間00分	1302時間00分	1277時間 分
960時間超～1,860時間の人数・割合	3人・10%	3人・10%	3人・10%
1,860時間超の人数・割合	0人・0%	0人・0%	0人・0%

※内科については、スタッフ全体の時間外数の平均値は高くない。そのため全体の平均値を下げるのではなく、突出して時間外が多い960時間越えのスタッフについて、宿直等の偏りを軽減する等により最長時間及び、960時間越えの医師の割合及び人数を減らすよう目標を設定する。

脳神経外科医師（7名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了年度の目標
----------------	-------	-------	-------------

平均	839 時間 00 分	839 時間 00 分	839 時間 00 分
最長	1180 時間 00 分	1165 時間 00 分	1151 時間 00 分
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	4 人・57%	4 人・57%	4 人・57%
1,860 時間超の人数・割合	人・%	人・%	人・%

小児科医師（ 16 名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	585 時間 00 分	585 時間 00 分	585 時間 00 分
最長	1032 時間 00 分	1027 時間 00 分	1022 時間 00 分
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	1 人・4%	1・4%	1・4%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	人・%	人・%

麻酔科医師（ 4 名）

年間の時間外・休日労働時間数	前年度実績	当年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	867 時間 20 分	867 時間 20 分	867 時間 20 分
最長	1170 時間 00 分	1156 時間 00 分	1142 時間 00 分
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	1 人・25%	1 人・25%	1 人・25%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	人・%	人・%

（2）労務管理・健康管理

【労働時間管理方法】

前年度の実績	ICカードによる打刻及び時間外命令簿による自己申告
当年度の実績	上記の方法による申請に基づき、各診療科の長が、所属職員の勤務時間及び時間外勤務について把握できるような体制を構築する。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む。

【宿日直許可の有無を踏まえた時間管理】

前年度の実績	特になし（申請予定無し）。
当年度の実績	産婦人科について申請を検討。
計画期間中の取組目標	上記のとおり。

【医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続等】

前年度の実績	自己研鑽など労働時間に該当するものとし、 ものを明確化し、医局会で周知活動を行った。
当年度の実績	前年度と同様継続して、自己研鑽など労働時間 に該当するものとし、ものを明確化し、周知活 動を行う。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【労使の話し合い、36協定の締結】

前年度の実績	診療科別に、時間外労働の実績に基づき、36協 定を締結した。
当年度の実績	上記事項に取り組む
計画期間中の取組目標	同上。

【衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制】

前年度の実績	安全衛生委員会を月1回開催し、診療科別に医 師の長時間労働者の把握に取り組んだ。一定時間 以上の長時間労働者に対して、その上司に事実を 伝え、業務調整を行った。また、本人希望による 産業医との面談を案内した。
当年度の実績	上記事項に取り組む。
計画期間中の取組目標	同上。

【追加的健康確保措置の実施】

令和6年度に向けた準備	令和6年度を見据え、連続勤務時間制限、勤 務間インターバル確保及び代償休息確保につい て各診療科に周知をおこない、当該追加的健康 確保措置可能とする勤務体制の構築を検討す る。
令和6年度の実績	各診療科の勤務体制を見直しや、面接指導実施 医師の確保及び、追加的健康確保措置を実施す る上で必要な医師の働き方改革に対応した勤務管理 ソフトの導入等に取り組む。

計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む
------------	-----------

(3) 意識改革・啓発

【働き方改革に関する医師の意識改革】

前年度の実績	医師の指揮命令系統及び管理監督責任の所在が不明瞭であることから、医師の働き方改革に取り組むため職責の明確化及び職位制度の整理をおこなった。責任を明確にする事により、役職者の意識改革が図れた。
当年度の実績	○各診療科の科部長が、責任をもって所属職員の勤務時間の管理を行う。 ○各診療科の科部長等が、院内の諸会議等に参加し、働き方改革の取組や、病院の決定事項について、科内スタッフに伝達し、周知できるように、役職者に責任を持って科内を管理してもらう。
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

(4) 策定プロセス

各診療科の代表及び、看護部、医療技術部の代表が参画する働き方改革委員会を開催し、この計画案の策定を行った。また、タスク・シフトや、医師の時間外の把握に取り組むために委員会の直下にワーキンググループを立ち上げ、時間外勤務の短縮について取り組む。本計画については、医局会や、他職種が確認できるように院内のイントラ等に掲示する。

2. 労働時間短縮に向けた取組（項目ごとに任意の取組を記載）

※ 以下のカテゴリごとに、最低1つの取組を記載。

(1) タスク・シフト/シェア

【看護師】

計画策定時点での取組実績	特定行為研修の受講を促進できるよう、院内規
--------------	-----------------------

	定の整備をおこなった。
計画期間中の取組目標	特定行為研修の受講者を増やし、医師から当該研修受講者へタスク・シフトが促進できるような仕組みを構築する。

【コ・メディカル】

計画策定時点での取組実績	業務範囲追加に伴う厚生労働大臣指定による研修の受講を推進した。
計画期間中の取組目標	研修受講者が、適切に役割が果たせるよう、業務分担を検討し、医師の負担軽減が出来るような体制作りを行う。

【医師事務作業補助者】

計画策定時点での取組実績	医師事務作業補助者 33 人体制で医師の具体的指示の下、診療録等の代行入力を行う。
計画期間中の取組目標	同上

(2) 医師の業務の見直し

【宿日直の体制や分担の見直し】

計画策定時点での取組実績	一部診療科の、宿直体制の見直しを行い、宿直医師の人数を減らす事により、宿直の負担軽減を図った。
計画期間中の取組目標	AI を活用した、宿直表の自動作成ソフト等を活用し、宿日直の負担が一部の医師に偏らないような宿日直体制を組む。また、同ソフトを活用することで、医師のシフト作成業務の軽減に努める。

(3) その他の勤務環境改善

【ICTその他の設備投資】

計画策定時点での取組実績	取組実績なし。
計画期間中の取組目標	AI 問診を導入し、医師の負担となっていたカルテの入力作業等の軽減をおこなう。

(4) 副業・兼業を行う医師の労働時間の管理

計画策定時点での取組実績	副業及び兼業先に、派遣医師の時間外勤務が多くなる場合は、副業及び兼業を中止する場合があります事を通知した。
計画期間中の取組目標	副業・兼業先へ、労働時間を毎月提出してもらい、当該時間の管理をおこなう。